

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備（保育所等）						掲載ページ
							178
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0 千円	0 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、知的障害児通園施設児童発達支援センター、入所施設、特別支援学校等で、市民が気軽に相談できる窓口を設けられないか検討します。その体制を作るため、障害児療育の専門機関による技術的支援を行うなど、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	市民の相談窓口設定の検討を行い、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	相談対応施設数	160 施設 (100%)	163 施設	163 施設	100.0 %	大変順調	
	保育所における市民への相談対応を行っている施設数が適当と考えられるため活動指標としました。 (最終目標と最終年度)						
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ			
					遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	全保育所において、相談に対応できる体制を整備していることから順調としました。また、療育の専門機関から支援事業や保育課や社会福祉研修所主催で相談体制づくりの研修を実施しました。保育所は身近な施設で相談がしやすく、発達相談の早期発見につながります。また乳児から就学前までの様々な子どもがいるので、実際の援助の様子を見ることができ、保護者にとって大きな支援になることから有効です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保育所の機能を有効利用することで予算をかけずに実施しており、経済性・効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後とも職員の専門性を高め、相談窓口としての機能を充実させ障害のある子どもの早期発見や支援につなげたいと思います。職員の専門性を高めるための研修会を実施します。また、育児に関する相談に対応していますが、障害に関する相談は少ないため、育児相談の一環としてPR活動を実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備（保育所等）						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,550	千円	2,843	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、知的通園施設、入所施設、特別支援学校等で市民が気軽に相談できる体制を整えるため、障害児療育専門機関による職員への技術的支援を行います。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	今年度も社会福祉法人に委託し、保育所等へ障害児療育の専門職員を派遣します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	施設一般指導事業実施件数		154 件	維持	139 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						
	保育所等訪問支援事業の実施件数		183 件	増加	623 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調
保育所等訪問支援は、障害児へ支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関り方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校などのからのニーズは続いており、前年度に引き続き派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかははっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援事業による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。</p> <p>なお、本事業は「保育所における地域活動事業」の一環として実施します。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)【拡充】						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童福祉法に基づく児童福祉の専門的行政機関として、児童相談所(子ども総合センター)において、相談、指導、心理・障害判定、一時保護などの業務を行っており、児童虐待、非行、不登校などの様々な課題を抱える子どもや保護者に対応するため、カウンセリングやケースワーク、関係機関との調整、連携により適切な支援を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	子どもや保護者などの相談者に適切な支援等を行うため、各種取組みを着実に進めていきます。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	児童相談受付件数		6,212 件	単年度目標 設定なし	6,876 件	— %	大変順調
	児童に関するあらゆる相談を受け付けた件数であり、児童福祉に関する専門的行政機関としての活動を最も端的に示すデータであることから指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)						
							順調
						やや遅れ	
						遅れ	
						順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は増加しており、これは児童虐待等に関する広報・PRによる効果と認識しています。 また、相談者には適時的確に支援を行っていることから、活動は順調と判断し、今後とも推進を図ります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	運営に係るコストについては、最小の経費で最大の効果を挙げるという組織管理の基本的理念に基づき、計画的かつ効率的な予算執行に努めてまいります。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
児童相談所(子ども総合センター)は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた行政機関であり、児童福祉の専門的機関として、児童を取り巻く多種多様な課題等に対し、迅速かつ適切に取り組むことが必要です。 今後とも、次代を担う子どもの健やかな育成のため、関係機関等との連携を密に図りながら、より効率的、効果的な事業運営に努めてまいります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	発達障害者支援センターの充実						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		31,809	千円	44,725 <small>「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。</small>	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	発達障害の特性（人とうまくかかわることが苦手、コミュニケーションの障害や強いこだわり等）から生じる本人の生活のしづらさや家族の負担など、発達障害のある人やその対応に苦慮している家族からの相談に応じ、発達障害のある人及びその家族への支援を行います。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	発達障害のある人及びその家族の相談支援を行います。 発達障害のある人に対する就労支援を行います。 支援者や市民及び関係機関等に対する普及啓発及び研修を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	発達障害者支援センターの相談支援・就労支援の延べ件数	3,262 件	増加	3,265 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	発達障害者支援センターでの相談支援や就労支援が、利用者の悩みや不安の解消につながるため、相談支援・就労支援の件数を活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					順調	
（最終目標と最終年度）				やや遅れ	遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成26年度は延べ3265件の相談を受け、多くの利用者の方の悩みや不安の解消につなげることができたと考えられます。このことにより発達障害者支援体制が有効に働いており、成果の状況は順調であると判断されます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	発達障害者支援センター「つばさ」において、これまで築いてきた発達障害児者及びその家族等への支援ネットワークを活用でき、経済性・効率性は高いと思われます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
利用者のニーズに合った事業を継続し、相談支援・就労支援を実施します。支援者や市民及び関係機関等に対する普及啓発及び研修についても引き続き行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	ショートステイ事業						掲載ページ
							178
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		249,435 千円	291,948 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	介護者の病気や冠婚葬祭などにより、一時的に介護等支援が受けられなくなった在宅の障害児(者)を、短期間、施設で預かり(宿泊型・日帰り型)必要な介護等を行います。今後、その充実を図り、重度の障害のある子どもの受け入れを含め、支援を強化します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	短期入所事業については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	短期入所の月延利用人数 短期入所は、保護者の身体的・精神的負担の軽減を図るためのレスパイト(一時的休息)としても必要であり、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 (最終目標と最終年度)平成27年度 345人/月	295 人/月	318 人/月	361 人/月 113.5 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	日中一時支援事業(日帰りショート)の利用者数 当該事業における利用者数の増加は、障害者(児)の日中における活動の場の確保及び介護負担の軽減につながります。 (最終目標と最終年度)平成27年度 148人/月	164 人/月	182 人/月	144 人/月 79.1 %	順調 やや遅れ 遅れ	
						順調

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保護者の身体的、精神的負担の軽減を図るために不可欠な支援であると考えており、今後も、サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に務めるとともに、利用者への適切なサービス利用の決定を行っていきます。
「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	短期入所については障害者総合支援法に基づく法定給付であり、自治体独自でその内容を決定できるものではありません。日帰りショートについても、同法に基づく地域生活支援事業であり、適切な支援が行われるよう、障害者(児)に対してのノウハウを有する事業者へ委託をしていきます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
保護者のレスパイトや就労支援の充実に必要な支援であり、今後も継続して事業を行います。短期入所については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施していきます。また、今後も利用者が必要とするサービスが適切に受けられるよう、適切なサービス利用の決定やサービス提供事業者への助言・指導を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する全市的な相談支援体制の整備 (旧:特別支援学校のセンター的機能の整備 と 旧:特別支援教育相談センターにおける相談事業を統合)						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		27,764 千円	44,955 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害のある児童生徒が自立や社会参加している状態。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	市内の小・中学校、園がそれぞれの機能を活かし相談支援体制を確立できるようになるまで指導助言を継続します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	特別支援教育コーディネーターを指名している学校園数	211 校	211 校	211 校	100.0 %	大変順調
	特別支援教育コーディネーターの効果的な活用ができるよう指導助言を行っています。 (最終目標と最終年度)					
	就学相談と通級相談の申し込み数(実数)	1,026 人	1,000 人	1,046 人	104.6 %	やや遅れ
申し込み数が増加している就学相談や通級相談のシステムを改善することで保護者・子ども・学校への対応がスムーズにできるようにします。 (最終目標と最終年度)						

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	【経済性】「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		全ての市立幼、小、中、高校では、特別支援教育コーディネーターを指名し、校内委員会を設置しています。今後は、校内の相談支援体制が確立できるよう指導助言を行っていきます。
		効率的な相談業務を行うことで、コスト削減に努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
特別支援教育相談センターの相談機能を強化し、全ての市立幼、小、中、高校学校の体制整備の一層の促進・質の向上を図ります。特別支援教育相談センターの相談機能を強化するために、専門家(言語聴覚士)の配置を引き続き検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	子ども総合センターの運営						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		92,796	千円	96,758	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童福祉法に基づく児童福祉の専門的行政機関として、相談、指導、心理・障害判定、一時保護などの業務を行っており、児童虐待、非行、不登校などの様々な課題を抱える子どもや保護者に対応するため、カウンセリングやケースワーク、関係機関との調整、連携により適切な支援を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	子どもや保護者などの相談者に適切な支援等を行うため、各種取組みを着実に進めていきます。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	児童相談受付件数		6,212 件	単年度目標設定なし	6,876 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	児童に関するあらゆる相談を受け付けた件数であり、児童福祉に関する専門的行政機関としての活動を最も端的に示すデータであることから指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)				— %		
							順調
(最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は増加しており、これは児童虐待等に関する広報・PRによる効果と認識しています。 また、相談者には適時的確に支援を行っていることから、活動は順調と判断し、今後とも推進を図ります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	運営に係るコストについては、最小の経費で最大の効果を挙げるという組織管理の基本的理念に基づき、計画的かつ効率的な予算執行に努めてまいります。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>児童相談所(子ども総合センター)は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた行政機関であり、児童福祉の専門的機関として、児童を取り巻く多種多様な課題等に対し、迅速かつ適切に取り組む必要があります。 今後とも、次代を担う子どもの健やかな育成のため、関係機関等との連携を密に図りながら、より効率的、効果的な事業運営に努めてまいります。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	北九州障害者しごとサポートセンターの充実						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		40,098	千円	40,544	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害者就労支援室

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	障害のある子どもたちが地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、学校等の教育機関やハローワーク等の関係機関との連携を強化するとともに、きめ細やかな就労支援を行い、就職を促進します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	障害者しごとサポートセンターを拠点に、本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓、企業の意識啓発に努めます。また、就労移行支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援に取り組みます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	障害者しごとサポートセンターの新規登録者数（20歳以下）		24人	増加	24人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「登録者数」の増加が、利用者のニーズに応える就労相談及び支援の拠点としての評価基準となることから、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）設定なし						
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数（20歳以下）		21人	増加	40人	順調 やや遅れ	順調
「就職件数」の増加が、就労支援の評価基準となることから、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）設定なし							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害者しごとサポートセンターにおいて、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・斡旋、能力や適性に応じた職業紹介の調整、就労企業開拓などにより就職を促進するとともに、職場定着支援を強化するため、職場適応援助者（ジョブコーチ）、就業支援カウンセラー、雇用アドバイザー設置の他、就業プロモーター1名配置による特別支援学校への就労支援活動の支援等により、就職件数は前年度より増加し、40人の就労を実現しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	当センターの運営は、同様の機関である「北九州障害者就業・生活支援センター」を国・県から受託している「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託しており、2つのセンターが合同で活動することで、高い効率性を獲得しています。また、関係機関（労働局、ハローワークなど）と密に連携を図り、効果的・経済的な取組みに努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
障害者しごとサポートセンターでは、就職実績が上がっていますが、障害者の雇用の促進等に関する法律において平成30年度から精神障害者が法定雇用率の算定基礎に加えられ、法定雇用率が引き上げられることから、関係機関との連携のもと、さらなる取組みの充実を図る必要があります。また、増加しつつある発達障害のある就職困難者への対応の強化が必要となっています。本人の能力や特性に応じたきめ細かな対応を行うとともに、新たな職場開拓、企業の意識啓発に努め、働く意欲のある子どもたちへの支援強化を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	北九州市障害者自立支援協議会の運営						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		5,162	千円	6,162	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保健・医療・福祉・教育・雇用の関係機関によるネットワークを構築し、機関相互の連携を図ることで障害児(者)の地域生活を支援します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動計画	地域の関係機関によるネットワークの構築や、解決が困難な事例への対応のあり方等に関して、関係機関が相互に連携し、協議を進めるための場を構築します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	自立支援協議会における研修会等の実施回数	27回	維持	29回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	支援機関職員等を対象にした研修会等を実施し、障害者支援の資質向上や障害者基幹相談支援センターを含めたネットワークの構築・強化に努めます。 (最終目標と最終年度)					順調
					やや遅れ	順調
(最終目標と最終年度)				遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	支援機関職員等を対象にした研修会等の開催により、順調な関係機関の連携の連携強化がなされています。市内の障害福祉関係機関の情報交換、意見・提案の場として有効に機能し、市内の障害福祉の発展に効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	協議会参加団体間の連携、ネットワーク形成のために効率的です。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
障害当事者や時代のニーズにあった形で協議会全体のフレームを見直し、より障害児(者)を取り巻く問題の解決につながる協議ができるようにします。協議会全体のフレームの見直しに伴う、各部会の新たな活動を検討して行きます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	高齢者・障害者相談コーナーの運営（旧：保健福祉相談コーナーの運営）						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		232	千円	268	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	高齢者・障害者相談コーナーは、障害者や高齢者の状況に応じた総合的なサービス提供が行われるように、健康づくりから介護サービスまであらゆる相談を受け付ける窓口です。これまでも相談体制の確立を図ってきましたが、今後、高齢者・障害者相談係長会議を定期的開催することや各区の保健福祉相談業務に従事する職員を研修に派遣する等により、さらなるレベルアップを図り、障害者や高齢者に対し総合的な相談支援を行うことが出来るように体制の強化を図ります。					
活動計画	高齢者・障害者相談係長会議を2ヶ月に1回、年6回開催します。各区の保健福祉相談業務に従事する職員の研修派遣を1区1人 計7人派遣し、職員の資質の向上に努めます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	高齢者・障害者相談コーナー相談件数 相談件数は、障害者又はその家族が各区高齢者・障害者相談コーナーに求めるニーズを把握する指標となるものです。今後とも、係長会議の定期的開催や職員の研修派遣等を通じ職員の資質の向上に努め、市民サービスの推進を図ります。 （最終目標と最終年度）	148,008 件	増加	151,293 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
					大変順調		
					順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	高齢者・障害者相談コーナー相談件数は、前年度実績に比べて伸びており、職員の資質向上が図られ、限られた人数と時間でより多くの障害者等の相談に対応できたもので、「活動の状況」は順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害者の相談は、近年複雑化してきており、それに対応するためには窓口職員の資質向上は不可欠です。本事業は継続的に窓口職員の資質向上を図ることにより、限られた人数と時間で総合的な相談支援を可能としています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後とも、高齢者・障害者相談係長会議を定期的開催するとともに、各区の相談業務に従事する職員を研修に派遣する等、更なるレベルアップを図り、障害者や高齢者に対し、総合的な相談支援を行うことができるように体制の強化を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	ホームヘルプサービス事業						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,962,392	千円	2,047,087	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(以下、「障害者総合支援法」)に基づく「障害福祉サービス」の一つで、ホームヘルパーの派遣を希望する在宅の障害児(者)に対し、支給時間数(利用できる時間数)を決定し、これに基づき、障害児(者)は事業者から身体介護や家事援助等のサービス提供を受けます。そのサービスに要した費用を市が負担します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	法定給付のため、法制度の仕組み等により給付等事業を行います。なお、国において制度改革等の動きがあることから、国の動向を見ながら事業を継続します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	訪問系サービスの月利用時間数	37,873 時間	41,051 時間	37,872 時間	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	訪問系サービス(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)の月延利用時間数の実績です。居宅介護事業等は、障害者が地域等で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 (最終目標と最終年度)平成27年度 40,742時間/月			92.3 %			
	(最終目標と最終年度)					順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害者(児)への必要なサービス提供は順調に提供されています。今後も、サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に努めるとともに、利用者への適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>障害者(児)が住み慣れた自宅等地域で生活していくうえで不可欠な支援であるため、今後も継続して事業を行います。法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施していきます。また、今後も利用者が必要とするサービスが適切に受けられるよう、適切なサービス利用の決定やサービス提供事業者への助言・指導を行います。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	障害児の長期休暇対策						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,252 千円	1,252 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	障害のある子ども本人の健全な育成と家族の介護負担軽減を図るため、障害のある子どもの長期休暇の過ごし方について、活動の場・各種のプログラムを提供します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	平成18年同事業の開始から9年が経過し、障害のある子どものニーズも徐々に変化してきているため、より実態に即した弾力的な運用ができるよう、利用者のニーズを踏まえた工夫を行います。また、前年に好評であった合同企画を引き続き実施します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	プログラム参加者数	302 人	増加	350 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	各種プログラムに参加する児童数が増加することで、障害児の家族の負担軽減につながります。 （最終目標と最終年度）設定なし					
					順調	順調
（最終目標と最終年度）				やや遅れ		
				遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害福祉サービスの日中一時支援事業が普及したことにより障害児の過ごせる場所の選択肢は増加しつつありますが、当該事業は障害児が安全かつ安心して過ごせる場所と機会を確保するだけでなく、様々な活動内容の中で普段かかわることの少ないボランティアと接することで、障害児自身が成長していける機会となっています。また、同事業の実施により家族の介護負担が軽減され、リフレッシュを図ることができています。今年度は前年度よりも多くの参加があったことから順調に進んでおり、ニーズの高い事業であると評価できます。一方で、人材不足によるボランティアの支援活動回数の減少で、ボランティア協会が主で実施する合同企画が増加していることが課題とされています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	プログラム実施の際、ボランティアを派遣する等、可能な限り経費の削減を行っており、経済的・効率的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
事業目的達成に向けて、多くの障害児が当該事業のプログラムに参加できるように広報活動を積極的に行うとともに、利用者ニーズを踏まえた魅力あるプログラムを作成します。 また、派遣するボランティアの人材不足によるボランティアの支援活動回数の減少については、ボランティアの育成も踏まえた事業の見直しを検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	北九州市障害者基幹相談支援センターの運営(旧:北九州市障害者地域生活支援センター)						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		126,575 千円	155,902 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者基幹相談支援センター」(ウェルとばたに内)の運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	障害者基幹相談支援センターにおいて、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	障害者基幹相談支援センターの相談件数	23,484 件	増加	24,561 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになるため、障害者地域生活支援センターが障害児(者)やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 (最終目標と最終年度) 43,669件 (平成29年度)					順調
				やや遅れ		
(最終目標と最終年度)				遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	広報活動の促進や、各種研修会を開催することで障害者基幹相談支援センターの知名度を上げることができ、相談件数は前年度より大きく増加しました。これにより多くの障害者及び家族等の悩みなどに対応することができたと推測されますので、成果の状況は順調と判断しました。 本事業は、障害者が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業であると考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	業務の簡素化、効率化を図るため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。これにより、職員の異動に左右されず長期的な相談人材の育成が可能になります。また、3障害への対応を1ヶ所で行うことにより障害種別、状態や年齢を問わない相談支援が可能となり、効率的に相談支援が実施できていると考えます。しかし、相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
平成27年度以降も引き続き、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができるようになります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	機能回復訓練事業						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		626	千円	489	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉センター

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	言語・聴覚障害児の障害を軽減し、在宅生活を支え、自立と社会参加を促進するため、言語聴覚士が個別または集団で相談・指導・訓練やコミュニケーションに関する専門的な情報提供等の支援を行います。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。 [個別訓練・集団訓練] 言語発達 延782人 構音 延573人 吃音 134人 親子ふれあいレクリエーション 1回：40人 [吃音に関する事業] 吃音講演会 1回：96人 吃音のある子と保護者のつどい 1回：27人 [コミュニケーション技術支援] 親子ふれあい教室 24回：延91組	
活動計画	以下のとおり、事業を実施します。 ・個別訓練・集団訓練（言語発達・構音・吃音）・親子ふれあいレクリエーションの実施。 ・吃音に関する事業（吃音講演会・吃音のある子と保護者のつどい）の実施。 ・コミュニケーション技術支援（親子ふれあい教室等）の実施。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	個別かつ多様な障害の状態に応じるため、よりきめ細かなリハビリが行えるよう、訓練内容の一層の充実を図ります。	—	—	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	（最終目標と最終年度）					順調
	（最終目標と最終年度）				やや遅れ	
	（最終目標と最終年度）				遅れ	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	年間延・約1,650人の児童に対し言語訓練を実施しました。また、家族や保育所・学校などからの専門相談に対応し、家庭や学校等でも行える訓練を教示するなど効果的な支援を行ったことから、順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	言語聴覚士2名体制で実施していますが、訓練件数等の多さや事故防止等の安全面の観点から、複数体制でなければ実施は困難です。また、専門職である言語聴覚士（国家資格）でなければ言語相談や訓練に対応できず、他職種職員による兼務は不可能です。当言語聴覚士は、通常業務として成人の障害者に対する言語訓練等や、更生相談所としての聴覚障害者の補装具交付判定業務における聴力検査・装用指導等を担っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
引き続き本事業を継続実施し、個別かつ多様な障害の状態に応じ、よりきめ細かな支援を行えるよう訓練内容の一層の充実を図っていきます。 ・個別訓練・集団訓練（言語発達・構音・吃音・親子ふれあいレクリエーション）の実施。 ・吃音に関する事業（親子わくわく教室・吃音講演会・吃音のある子と保護者のつどい）の実施。 ・コミュニケーション技術支援（親子ふれあい教室等）の実施。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育を行う場の整備						掲載ページ
							180
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		935,767 千円	3,558,117 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	企画課 特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	特別な支援が必要な児童生徒の状況や学校の設置要望等に応じて、適切に設置できている状態を目指します。			活動実績	特別支援学級や通級指導教室の設置が本人や保護者の希望を踏まえて計画的に行われ、確実に前進しています。	
活動計画	特別支援学級及び通級指導教室が適切と判断される幼児児童生徒を早期に把握し、地域的な設置状況を踏まえながら、教育的ニーズのある小・中学校の設置を行います。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	居住地の校区外の特別支援学級に通学している対象児童生徒の割合		30 %	25 %	19 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	共生社会の実現に向けて、障害のある本人や保護者の負担を軽減するためにも、居住地の特別支援学級に通学することを目指します。 (最終目標と最終年度)						
	通級指導教室の設置校数		18 校	20 校	18 校	やや遅れ	順調
通級指導教室を新設または増設することで、対象児童生徒のニーズに応えます。通級指導教室設置校数を18校から24校に増加させることを目指します。 (最終目標と最終年度)							
				90.0 %	遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成25年度に特別支援学級の設置校数は、小学校131校中94校、中学校62校中47校であったのに対し、平成26年度は小学校100校、中学校49校に設置しています。通級指導教室については、新設がありませんでした。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民の特別支援学級の新設に対するニーズは高い状況です。特別支援学級の設置については、児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえ、福岡県とも連携しながら、必要に応じ、適切に設置しております。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援学級を教育的ニーズのある小・中学校に設置し、通級指導教室を小・中学校ともに全区に設置することを目指し、特別支援教育の場を充実させます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する人の配置						掲載ページ
							180
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		155,362 千円	221,287 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	適切な支援・指導を図り、障害のある幼児児童生徒の学校生活を安全で安心できるようにします。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	学校の状況を多方面からの情報を基に検討し、人材を効果的に配置することで目的を達成します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	特別支援教育補助講師の配置校数		48 校	50 校	62 校	124.0 %	大変順調
	通常の学級及び特別支援学級等における特別支援教育の充実を目指すため、学校の実情に応じて継続して特別支援教育補助講師の配置を行います。また、新たに特別支援教育学習支援員の配置を行います。 (最終目標と最終年度)						
	特別支援教育介助員の配置校数		19 校	20 校	20 校	100.0 %	やや遅れ
通常の学級に肢体不自由の児童生徒が在籍する小・中学校に対して、特別支援教育介助員を配置し、学習面や生活面での介助を行います。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	必要に応じて児童生徒数がおおむね5人以上の自閉症・情緒障害特別支援学級に、特別支援学級補助講師を配置しました。また、新たに特別支援教育学習支援員も5名配置しました。特別支援介助員は児童生徒の身体の状態を確認した上で必要に応じた配置ができており、26年度も20名の配置ができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	学校・園からの要望や必要性を勘案し、適切に配置しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
市費講師等を特別支援教育支援員として幼稚園、小・中学校等に配置し、障害のある子どもたちに対して学習指導や生活介助等を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育の理解啓発						掲載ページ
							180
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		39,594 千円	1,967 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保護者や市民、関係機関等に、障害のある子どもたちや特別支援教育について理解が深まるようにします。		活動実績	公開講座については、研修等の機会を捉えて広報することで、目標以上の参加者を集めることができました。発刊物は、6種類を刊行し、幼稚園・保育所、学校、保護者へ配付しました。	
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ○公開講座について、研修等の場を利用して、積極的に広報活動を行います。 ○刊行物を幼稚園・保育所、学校、保護者に広く配布します。 ○幼稚園・保育所、学校に、可能なものはデータ配信し、保護者への配付依頼を行います。 					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	公開講座参加人数 幼稚園・保育所・小学校の教職員向けの公開講座を開催し、障害のある子どもの小学校へのスムーズな移行を目指します。このため、当該指標を設定しました。 (最終目標と最終年度)	521 人	550 人	601 人 109.3 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	理解啓発資料刊行数 保護者向けのリーフレット「通常学級における特別支援教育」等、特に市民・保護者への理解啓発の充実に努めます。このため、当該指標を設定しました。 (最終目標と最終年度)	5 刊行	6 刊行	6 刊行 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成26年度は理解啓発資料を6種類刊行し、幼稚園・保育所、学校、保護者へ配付するとともに、機会あるごとに活用することを周知しました。また、HPを適切に更新してニーズに応えるようにしました。公開講座では、601人が参加しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	可能なものについては、幼稚園、学校等にデータ配信して保護者への配布依頼をするなど、周知に向けて費用対効果は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
これまでの刊行物に加え、新たな刊行物を作成し、幼稚園・保育所、学校、保護者に配付します。ホームページを定期的に更新します。